

日本工学院専門学校	開講年度	2020年度	科目名	キャリアプランニング3	
科目基礎情報					
開設学科	コンサート・イベント科	コース名	全コース	開設期	前期
対象年次	2年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位			授業形態	講義
教科書/教材	内容に応じて資料・プリントを配布する。キャリアサポートブック				
担当教員情報					
担当教員	田中朋子/島立麦人/富樫咲子/小峰建/吉野雄一郎/山下顕治			実務経験の有無・職種	無
学習目的					
この科目を受講する学生は、ひとりひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を通して、キャリア発達を促すことが出来、また一定又は特定の職業に従事するために必要な知識・技能、能力や態度を育てることを目的とします。自己分析やグループワークを通し、自身の意見を発言することや、他人の意見を聞き入れ、まとめることが出来るようになることを目的とする。					
到達目標					
この科目では、卒業後、就業する職業に特定されることのない社会人としての考察力や人間力を身につけることが出来る。社会で働くことについての自身の姿勢・態度は身につけた知識・技能と共にどうあるべきか、その考え方を身につけることが出来る。自身の考えを基に人にどう伝え、どう理解を得るのかを考え、他人の意見を聞き、自身の中での理解をしたらうで、肯定・否定の意見をまとめたうで、述べ、相手に自身の考えを伝えることが出来るようになる。					
教育方法等					
授業概要	自己分析を通して、自身が今まで経験し身につけてきたこと、課題に取り組み、問題解決をしてきたことを、改めて明確にし文章として書きだせるようになることや、グループワーク・ディスカッションを通して、他人の話すことを聞き、自身の意見を発言し肯定・否定の両局面から問題をみて、まとめる。時事問題などへの取り組みをし、社会への視野を広げることを目指す。				
注意点	この授業では学生自身が積極性を持って、授業の中での取り組むことを重視する。グループワークでは他者の発言を直ぐに否定せずに、まずは聞き入れることから始める。多数決や消去法によって意見をまとめるのではなく、各自が話し合った内容をもとに討議を取ることを求める。また普段から時事問題への興味を持ち、情報収取をする姿勢が大切である。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することが出来ない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	50%	定期的に出される課題への取り組みと、その内容に対しての評価をする。		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 (口頭・実技)	0%			
	平常点	50%	出席点		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1回	キャリアビジョン計画		2年次の1年間で自身が卒業後の進路を見据えて、年間の行動予定を計画する		
2回	合同企業説明会参加の心得		個人と合同説明会の違いを知り、企業のチェックポイント、学生に対するチェックポイントを知る		
3回	自己分析振り返り1		1年次に行った自己分析を振り返り、過去の自分を分析する		
4回	自己分析振り返り2		現在の自分を分析し、自分の「能力」と「性向（性格・価値観・志向性）」を理解する		
5回	自己分析振り返り3		将来の自身について考え、「なりたい自分」をイメージし、「やりたい仕事」について考える		
6回	自己分析振り返り4		自己分析をもとに、「やりたい仕事」となる適職を探す		
7回	履歴書の書き方 復習		志望動機、自己PRを折り込んでの履歴書、ESを魅力的に書けるコツを学ぶ		
8回	ESの書き方 復習		履歴書の書き方のコツをもとに、各企業の特徴をとらえたESが書けるようにする		
9回	時事問題への取り組み 1		時事問題への取り組み、問題の解決。時事問題への理解力を図る（グループディスカッション）		
10回	業界研究		時代とともに変化する産業社会の構造を知り、世の中全体の業界の種類を知る		
11回	業種・職種研究		進み続ける業界・業種のボーダレス化構造を知り、業界を業種別に分類し、事業内容を知る		
12回	企業研究1		大企業・中小企業など会社の規模や仕組みを知る		
13回	企業研究2		企業を選ぶ際の着眼点を知り、働き甲斐のある企業を見極める力を養う		
14回	グループディスカッション 1		「働くこと」をテーマにグループディスカッションを行う		
15回	時事問題への取り組み2		時事問題への取り組み、問題の解決。時事問題への理解力を図る(個人記述ワーク)		